

2022 年度実施概要

学校名

洋野町立宿戸小学校

採択活動名

宿戸うみプロジェクト

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. うみであそぼう	1	生活・図工・国語
2. 宿戸のすてきをみつけよう！	2	生活・国語
3. 発見！宿戸（ウニ・岡谷神社・しいたけ）	3	総合・海洋・社会
4. 森と海のつながり調査隊！	4	総合・海洋・理科・社会
5. 洋野町の水産業調査隊～洋野がほこる極上のウニをもとめて海の旅～	5	総合・海洋・国語・社会
6. わたしの卒業論文	6	総合・海洋・国語

取り組みの概要

宿戸小学校は、「児童が宿戸の海を知り、大切に思い、共存しながら生きる人に育ってほしい」という地域の願いを受け、地域住民の協力のもと、宿戸ならではの取り組みが続けられてきた学校である。しかし、地域の願いを踏まえた体験学習の中には、6年間の学びの系統性が明確でないものもあった。そこで、児童に身につけさせたい力とねらい、教科とのつながりを踏まえてこれまでの体験学習を捉えなおし、海洋教育として実践を積み重ねてきた。

今年度も、前年度までの活動を生かし、児童の実態に合わせて変更を加えつつ、全学年の教育課程に海洋教育を位置付け、生活・総合・今年度から新設された海洋科を中心に教科横断的な取り組みを続けてきた。テーマは、1・2学年「海に親しむ」、3学年「海と地域」、4学年「海と環境」、5学年「海と産業」、6学年「海と世界」である。

○1学年・2学年

宿戸小学校の昇降口には大きな水槽が設置されており、1・2年生が餌をやりながら地元の海にいる生き物を観察している。5月には、2年生が「稚ウニ放流・乗船体験」をし、6月には、1・2年生で「磯遊び」に出かけ、磯の生き物を観察し、地域の海に親しんでいる。

○3学年

宿戸には「ウニ」「岡谷稲荷神社」「しいたけ」という3つの自慢がある。地域の地理的条件や気候の特性を生かした自慢について探求する中で、特産にしてきた地域の人たちこそが宿戸の自慢であることにたどり着いている。今年度は、岡谷稲荷神社、しいたけ栽培場の見学を通して感じたことや、それぞれについて調べて分かったことのベスト3をリーフレットとしてまとめた。



○4 学年

洋野町宿戸の海岸には明治、昭和の津波供養塔が複数あり、海と共に生きてきた歴史が刻まれている。社会の学習を受け、防潮堤を見学したり、現地で避難路を確認したり、地域の自主防災組織の方から防災について学ぶ場面を設定した。また、森・川・海にどのようなつながりがあるのかについて、理科や社会での学習とも関連させ、一人一台端末を活用しながら探求活動を行い、自分たちの考えをまとめた。そして、洋野町でおいしい海産物がとれることが当たり前ではなく、つながっている森を育てることが大事であることの理解を深めている。

○5 学年

ウニをはじめとする水産物加工もさかんな地域である。児童が2年生の時に放流してから3年後の6月には「水産教室」があり、ウニの殻むき体験と試食をする。増殖溝についても学び、宿戸の海岸地形を生かした先人の工夫と努力を知る。さらに、ウニ栽培漁業センターでウニの生態、成長について取材し、宿戸の自慢たる理由に迫る。その後、地元企業の北三陸ファクトリーを見学し、ウニの加工について学び、海に関連した仕事とともに、海と共に生きる地域の人々について学習を深めた。



○6 学年

まずは世界でどんなことが環境問題となっているのか調べ、交流し、話し合うことで、地球温暖化、海洋ゴミ、マイクロプラスチック問題など、現在地球上では様々な海洋環境問題が起きていることを確認した。これまでの海洋学習を生かし、自分たちの地域の海と、それぞれが興味関心をもった環境問題を重ね合わせた上で、自分たちに何ができるか考え、ポスターにまとめた。海洋教育サミットでは、テーマについての考えや、それぞれが考えたキャッチコピーの交流を通して、他校の児童と絆を深めた。その後、サミットで生まれた新たな気づきについてさらに調べ、卒業論文にまとめた。

